

平成22年度以降の国立大学の入学者選抜制度改革の基本方向について
国立大学協会入試委員会

国立大学の入学者選抜制度の性格

・国立大学の使命と入学者選抜制度

国立大学は、我が国における知識の創造拠点、高度人材育成の中核、大学教育機会の保証、地域社会を含む社会一般への知的貢献等の役割を担ってきた。こうしたことは、国立大学の理念の中心をなすとともに、社会が国立大学に求めるところであり、設置形態の変化にかかわらず、今後もそのような役割を果たすことを追求しなければならない。

国立大学協会は、公共的性格をもつ国立大学の入学者選抜制度を自主的に定め、これによって個別の大学は、それぞれ自立的に入学者選抜を行い、社会に受容される環境を獲得してきた。

・高等学校教育における普遍的学習と国立大学の入学者選抜

国立大学は、共通第1次学力試験の導入以来、個別学力試験において各大学・学部等の専門特性に応じた入学者選抜を行ってきたが、そのような選抜方法は高等学校教育における普遍的学習の成果の修得を前提にしてはじめて成立する。

入学者選抜制度改革の基本的方向

・入学者選抜における複数受験機会や評価尺度多元化の方針を維持する

一般学力選抜にあっては、現行の分離分割方式を維持する。ただし、分割単位や分割比率に関しては、平成15年に決定した「弾力化措置」を引き続き適用するとともに、後期日程試験に募集人員の多数を置くことを認める。

これは、分離分割方式が、国立大学の入学者選抜に課せられた諸課題（受験機会複数化、期校・期校制や連続方式の弊害の克服、「丁寧な選抜」の推進など）の実現を図る上で適切な制度であること、共通の制度の中で国立大学がそれぞれの機能と個性に基づいて選択する自由度を高めること等に基づいている。

参考：分離分割方式の「弾力化措置」（平成15年11月12日総会承認）

募集人員の分割を行う単位は募集単位にかかわらず原則学部とする。募集人員分割は現行比率を基準に個別大学の裁量で弾力的に実施する。分割比率の少ない日程の募集人員に推薦入学・AO入試などを含めることについてはこれを妨げない。

・高等学校教育の目標達成を支援し、その成果を把握する仕組みについての検討を進める

先に述べた国立大学の使命を実現するためにも、国立大学は、高等学校において基本的教科・科目を普遍的に履修し、大学における総合的な教養教育や基礎教育を受け、さらに進んで先端の学術分野の成果を修得しうる学生を求めている。

そのためにも、大学入試センター試験のあり方を含め、高等学校での普遍的学習の成果を把握する仕組みについての検討を高等学校をはじめとする関係各機関と連携して進める。